

下関国際新聞

中学1・2・3年生

下関市総合政策部
国際課

Tel:083(231)9653
Email:sskokusa@city.shimonoseki.yamaguchi.jp

中学生米国派遣研修団8名元気に帰関

7月31日市内中学生代表8名を姉妹都市米国ピッツバーグ市（カルフォルニア州）に派遣。5泊のホームステイを終え6日に元気に帰関しました！

次代を担う小さな国際人育成に向けて

下関市は、国際化に対応できる人材育成のため、毎年8名の中学生国際親善大使を任命し、ピッツバーグ市へ派遣しています。本年度の研修団は、訪米後、市長等表敬訪問、警察署、総領事館等の視察、地元高校生との交流やホームステイを通じ、本場の英語や米文化を直接肌で体験しました。

いざ、ピッツバーグへ

新下関駅で先生や家族に見送られた後、福岡空港から成田空港を経由し、一路サンフランシスコへ。9時間のフライトの疲れも見せず、昼食にアメリカンサイゼのハンバーガーを平らげ、在サンフランシスコ総領事館を訪問。現地情報収集、日本人保護、旅券・査証交付など領事館内での研修。ピッツバーグ市

6月下旬、別々の学校から集まった団員8名は、緊張した面持ちで開講式を迎えました。その後、出発までの4回の事前研修では、現地を調べる各自の課題（アニメ・マンガ、日常生活、食文化、宗教等）を日



本語と英語でまとめることにも、ホームステイの心構えや郷土下関について学習し、知識を深めました。重要な役割について学びました。「なぜサンフランシスコで働くことになったのか。」という団員の質問に対し、萩原副領事がお話してくださいました。その後、ピッツバーグに移動し、いよいよホストファミリーと対面。ホストファミリーの大きな笑顔に迎えられ、一気に緊張がほぐれました。

ピッツバーグ探検

2日目は、ピッツバーグ市内での研修。ピッツバーグ



ピッツバーグ市

- 人口：6万3千人・面積：40km²
- 姉妹都市締結 1998年12月18日・アメリカ西海岸サンフランシスコの東約60km



高校で英語での説明を一生懸命に聞き取りました。アーノルドシュワルツネッガー前州知事の肖像画は現在作製中とのことでした。議事堂を後にし、カニが名物のレストランドでは、驚くほどフレンドリーなナンシー・ペアレント市長に面会。市議会を見学させてもらいました。その後、警察署や歴史博物館、書店、カリフォルニアアジアタリ等を視察。夜あけてのお祭りCulinary Crawlをピッツバーグ市民と共に楽しみました。

サンフランシスコへ

4日目、サンフランシスコ。ホストファミリーの子供たちと、行きのバスからハイテクシヨン。霧



英語での説明を一生懸命に聞き取りました。アーノルドシュワルツネッガー前州知事の肖像画は現在作製中とのことでした。議事堂を後にし、カニが名物のレストランドでは、驚くほどフレンドリーなナンシー・ペアレント市長に面会。市議会を見学させてもらいました。その後、警察署や歴史博物館、書店、カリフォルニアアジアタリ等を視察。夜あけてのお祭りCulinary Crawlをピッツバーグ市民と共に楽しみました。

ホストファミリーとの休日

あつという間に研修最終日。この日は、ホストファミリーと共にプールパーティー。ホストブラザー&シスターたちとプールに飛び込んだり、



朝7時、お別れ式。ホストファミリーのコレット夫人から日本語でのメッセージをいただきました。「いつでも帰ってきていいよ。」と言ってくれたホストファミリーに涙でなかなか声にならない「ありがとう。」を伝えました。

さよならピッツバーグ

「帰りたくない。」の声。

歌を披露。皆が手を止め、団員達の歌声に耳を傾けてくれました。翌日の帰国を実感し、団員からは、口々に「帰りたくない。」の声。

研修報告発表会

帰国後、保護者や先生等を迎え研修報告発表会を行いました。ホームステイの様子や自由研究の結果を団員一人ひとりが報告。米国で教わったダンスやホストファミリーに贈った歌も披露しました。この研修をサポートしてくれた全ての人達に感謝の気持ち伝える団員達。その姿は、6月の開講式の日に、よまひり、とまわり、大きく感じました。

ボイス（団員の声）

●アメリカに行くことで自分の世界がすごく広がりました。自分でもびっくりするぐらいたくさんの事へ興味を抱くことができました。（日新中O.H）

●お別れはとても辛かったです。でも、いつまでも忘れません。この研修は私の視野を広げてくれました。将来は国際人になれるよう、成長していきたいです。（長府中M.A）

●国境を越えて、いろいろなことを学ぶことができました。「私達が見て学んでいたものはごく一部であり、世界はとても広いのだ。」と感じました。（長府中T.A）

●今回の研修で強く感じたことは「人のあたたかさ」です。行くところすべての場所で笑顔で迎えてくれたことがすごくうれしくて私も笑顔になりました。（勝山中Y.A）

●帰国してふと思うと団員8人がとても太い友情で結ばれていました。これがとても大きな収穫だったと思います。（菊川中K.T）

●今回の研修は、日本とアメリカの違いや語学面でたくさんを学ぶことが出来ましたが、それ以上に周りに感謝しなければならないことを学びました。（豊洋中K.A）

●全然言いたいことが伝わらないことも、相手の考えがわからないことも何度もありましたが、そういうことも含めて全部楽しかったです。（夢が丘中N.M）

●「できる、できないではなくて、やるか、やらないか」ということをよく言われますが、今回の研修ではそれがよく分かりました。意識して自分から動けるようになりました。（夢が丘中M.S）

○団員達は自分の英語が「通じる喜び」「もっと伝えたいもどかしさ」そして「勉強して話せるようになる」という希望を胸に帰国しました。また、人とのふれ合いを通し、言葉では言い尽くせない感謝の気持ちを感じることでできました。中学生の多感な時期にこの大きな財産を得られたことはきっと今後の人生に役立つことだと思います。

（引率：原川智恵）

○改めて郷土下関の歴史文化などを学習する良い機会となったこと、そして、訪米した姉妹都市ピッツバーグ市の人達だけでなく、団員同士がそれぞれ学校や学年が違う中で、垣根を越えてかけがえのない友達を作ることができたことがとても嬉しかったです。

（団長：川上勝）

